



## ネイティブ プロファイリング

---

- [ネイティブ プロファイリングについて \(1 ページ\)](#)
- [クラス マップの作成 \(GUI\) \(2 ページ\)](#)
- [クラス マップの作成 \(CLI\) \(2 ページ\)](#)
- [サービス テンプレートの作成 \(GUI\) \(5 ページ\)](#)
- [サービス テンプレートの作成 \(CLI\) \(5 ページ\)](#)
- [パラメータ マップの作成 \(6 ページ\)](#)
- [ポリシー マップの作成 \(GUI\) \(7 ページ\)](#)
- [ポリシー マップの作成 \(CLI\) \(7 ページ\)](#)
- [ローカル モードでのネイティブ プロファイリングの設定 \(10 ページ\)](#)
- [ネイティブ プロファイル設定の確認 \(10 ページ\)](#)

## ネイティブ プロファイリングについて

HTTP と DHCP に基づいてデバイスをプロファイルし、ネットワーク上のエンドデバイスを識別できます。デバイスベースのポリシーを設定して、ネットワーク上でユーザーまたはデバイス ポリシーごとに適用できます。

ポリシーを使用すれば、モバイルデバイスのプロファイリングと、プロファイルしたデバイスの特定の VLAN への基本オンボーディングが可能になります。また、ACL と QoS を割り当てたり、セッション タイムアウトを設定したりできます。

ポリシーは 2 つの異なるコンポーネントとして設定できます。

- ネットワークに接続しているクライアントに固有のサービス テンプレートとしてポリシー属性を定義し、ポリシー一致基準を適用する。
- ポリシーへの一致基準の適用。



---

(注) ネイティブ プロファイルの設定に進む前に、HTTP プロファイリングと DHCP プロファイリングが有効になっていることを確認してください。

---

ネイティブプロファイリングを設定するには、次のいずれかの手順を使用します。

- サービス テンプレートを作成する
- クラス マップの作成




---

**注** サービス テンプレートは、クラス マップまたはパラメータ マップのいずれかを使用して適用できます。

---

- パラメータ マップを作成し、サービス テンプレートをパラメータ マップに関連付ける
  - ポリシー マップの作成
    1. クラス マップを使用する場合：クラス マップをポリシー マップに関連付けて、サービス テンプレートをクラス マップに関連付けます。
    2. パラメータ マップを使用する合：パラメータ マップをポリシー マップに関連付けます。
  - ポリシー マップをポリシー プロファイルに関連付けます。

## クラス マップの作成 (GUI)

### 手順

- 
- ステップ 1 [Configuration] > [Services] > [QoS] をクリックします。
  - ステップ 2 [Qos - Policy] 領域で、[Add] をクリックして新しい QoS ポリシーを作成するか、編集するポリシーをクリックします。
  - ステップ 3 [Add Class Map] を追加し、詳細を入力します。
  - ステップ 4 [Save] をクリックします。
  - ステップ 5 [Update and Apply to Device] をクリックします。
- 

## クラス マップの作成 (CLI)




---

(注) CLI によるクラスマップの設定には、GUI よりも多くのオプションがあり、詳細に設定できません。

---

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>class-map type control subscriber match-any class-map-name</b> 例： Device(config)# class-map type control subscriber match-any cls_user	クラスマップのタイプと名前を指定します。
ステップ 3	<b>match username username</b> 例： Device(config-filter-control-classmap)# match username ciscoise	クラスマップ属性フィルタ基準を指定します。
ステップ 4	<b>class-map type control subscriber match-any class-map-name</b> 例： Device(config)# class-map type control subscriber match-any cls_userrole	クラスマップのタイプと名前を指定します。
ステップ 5	<b>match user-role ユーザー ロール</b> 例： Device(config-filter-control-classmap)# match user-role engineer	クラスマップ属性フィルタ基準を指定します。
ステップ 6	<b>class-map type control subscriber match-any class-map-name</b> 例： Device(config)# class-map type control subscriber match-any cls_oui	クラスマップのタイプと名前を指定します。
ステップ 7	<b>match oui oui-address</b> 例： Device(config-filter-control-classmap)# match oui 48.f8.b3	クラスマップ属性フィルタ基準を指定します。
ステップ 8	<b>class-map type control subscriber match-any class-map-name</b> 例： Device(config)# class-map type control subscriber match-any cls_mac	クラスマップのタイプと名前を指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<b>match mac-address</b> <i>mac-address</i> 例： Device (config-filter-control-classmap)# match mac-address 0040.96b9.4a0d	クラスマップ属性フィルタ基準を指定します。
ステップ 10	<b>class-map type control subscriber</b> <b>match-any</b> <i>class-map-name</i> 例： Device (config)# class-map type control subscriber match-any cls_devtype	クラスマップのタイプと名前を指定します。
ステップ 11	<b>match device-type</b> <i>device-type</i> 例： Device (config-filter-control-classmap)# match device-type windows	クラスマップ属性フィルタ基準を指定します。
ステップ 12	<b>match join-time-of-day</b> <i>start-time end-time</i> 例： Device (config-filter-control-classmap)# match join-time-of-day 10:30 12:30	時刻の一致を指定します。  ここで照合の対象となるのは、接続時刻です。たとえば、一致フィルタが午前 11:00 から午後 2:00 に設定されている場合、午前 10:59 に接続したデバイスは、クレデンシャルの取得が午前 11:00 以降であっても一致と見なされません。  ここで、各変数は次のように定義されます。  <i>start-time</i> と <i>end-time</i> は 24 時間形式で指定します。  設定を確認するには、 <b>show class-map type control subscriber name</b> <i>name</i> コマンドを使用します。  (注) このコマンドを使用するには、AAA オーバーライドも無効にする必要があります。

## サービス テンプレートの作成 (GUI)

### 手順

ステップ 1 [Configuration] > [Security] > [Local Policy] を選択します。

ステップ 2 [Local Policy] ページの [Service Template] タブで、[ADD] をクリックします。

ステップ 3 [Create Service Template] ウィンドウで、次のパラメータを入力します。

- [Service Template Name] : テンプレートの名前を入力します。
- [VLAN ID] : テンプレートの VLAN ID を入力します。有効な範囲は 1 ~ 4094 です。
- [Session Timeout (secs)] : テンプレートのタイムアウト時間を設定します。有効な範囲は 1 ~ 65535 です。
- [Access Control List] : ドロップダウンリストからアクセス制御リストを選択します。
- [Ingress QoS] : ドロップダウンリストからクライアントの入力 QoS ポリシーを選択します
- [Egress QoS] : ドロップダウンリストからクライアントの出力 QoS ポリシーを選択します

ステップ 4 [Save & Apply to Device] をクリックします。

## サービス テンプレートの作成 (CLI)

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>service-template service-template-name</b> 例 : Device(config)# service-template svcl	サービス テンプレート コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>access-group access-list-name</b> 例 : Device (config-service-template) # access-group acl-auto	適用するアクセスリストを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>vlan</b> <i>vlan-id</i> 例： Device(config-service-template)# vlan 10	VLAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ～ 4094 です。
ステップ 5	<b>absolute-timer</b> <i>timer</i> 例： Device(config-service-template)# absolute-timer 1000	サービス テンプレートのセッション タイムアウト値を指定します。有効な範囲は 1 ～ 65535 です。
ステップ 6	<b>service-policy qos input</b> <i>qos-policy</i> 例： Device(config-service-template)# service-policy qos input in_qos	クライアントの入力 QoS ポリシーを設定します。
ステップ 7	<b>service-policy qos output</b> <i>qos-policy</i> 例： Device(config-service-template)# service-policy qos output out_qos	クライアントの出力 QoS ポリシーを設定します。

## パラメータ マップの作成

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	<b>parameter-map type subscriber attribute-to-service</b> <i>parameter-map-name</i> 例： Device(config)# parameter-map type subscriber attribute-to-service param	パラメータ マップのタイプと名前を指定します。
ステップ 3	<b>map-indexmap device-type eqfilter-name</b> 例： Device(config-parameter-map-filter)# 1 map device-type eq "windows" mac-address eq 3c77.e602.2f91 username eq "cisco"	パラメータ マップ属性フィルタ基準を指定します。ここに示す例では、複数のフィルタが使用されています。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<code>map-index service-template service-template-name precedence precedence-num</code>  例 : <pre>Device(config-parameter-map-filter-submode)#  1 service-template svcl precedence 150</pre>	サービス テンプレートとその優先順位を指定します。

## ポリシー マップの作成 (GUI)

### 手順

- 
- ステップ 1 [Configuration] > [Security] > [Local Policy] > [Policy Map] タブを選択します。
  - ステップ 2 [Policy Map Name] テキスト フィールドに、ポリシー マップの名前を入力します。
  - ステップ 3 [Add] をクリックします。
  - ステップ 4 [Service Template] ドロップダウンリストからサービス テンプレートを選択します。
  - ステップ 5 次のパラメータでは、ドロップダウンリストからフィルタのタイプを選択し、必要な一致基準を入力します。
    - Device Type
    - ユーザー ロール
    - ユーザー名
    - OUI
    - MAC アドレス
  - ステップ 6 [Add Criteria] をクリックします。
  - ステップ 7 [Update & Apply to Device] をクリックします。
- 

## ポリシー マップの作成 (CLI)

### 始める前に

ポリシー マップまたはパラメータ マップを削除する場合は、事前にターゲットから削除するか、WLAN プロファイルをシャット ダウンするか、セッションを削除する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>policy-map type control subscriber</b> <i>policy-map-name</i> 例： Device(config)# policy-map type control subscriber polmap5	ポリシーマップタイプを指定します。
ステップ 3	<b>event identity-update match-all</b> 例： Device (config-event-control-policymap) # event identity-update match-all	ポリシーマップに対して一致基準を指定します。
ステップ 4	次に示すように、クラスマップまたはパラメータマップのいずれかを使用してサービステンプレートを適用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>class-num class class-map-name do-until-failure</b></li> <li>• <b>action-index activate service-template service-template-name</b></li> <li>• <b>action-index map attribute-to-service table parameter-map-name</b></li> </ul> 例： 次の例は、サービステンプレートを含むクラスマップを適用する方法を示しています。 <pre>Device (config-class-control-policymap) # 10 class cls_mac do-until-failure Device (config-action-control-policymap) # 10 activate service-template svcl</pre> 例： 次の例は、パラメータマップを適用する方法を示しています (パラメータマップ「param」の作成時にサービステンプレートがすでに関連付けられています)。 <pre>Device (config-action-control-policymap) #1 map attribute-to-service table param</pre>	ローカルプロファイリングポリシーのクラスマップ番号を設定し、アクションの実行方法を指定するか、サービステンプレートをアクティブ化するか、identity-update 属性を自動設定テンプレートにマッピングします。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>end</b> 例 : Device (config-action-control-policymap) # end	コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 6	<b>configure terminal</b> 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>wireless profile policy</b> <i>wlan-policy-profile-name</i> 例 : Device (config) # wireless profile policy <i>wlan-policy-profilename</i>	ワイヤレスポリシープロファイルを設定します。  <b>注意</b> 名前付きワイヤレスプロファイルポリシーでネイティブプロファイリングの AAA オーバーライドを設定しないでください。ネイティブプロファイリングは、AAA ポリシーよりも低い優先順位で適用されます。AAA オーバーライドが有効になっている場合、AAA ポリシーでネイティブプロファイルポリシーがオーバーライドされます。
ステップ 8	<b>description</b> <i>profile-policy-description</i> 例 : Device (config-wireless-policy) # description "default policy profile"	ポリシープロファイルの説明を追加します。
ステップ 9	<b>dhcp-tlv-caching</b> 例 : Device (config-wireless-policy) # dhcp-tlv-caching	WLAN で DHCP TLV キャッシングを設定します。
ステップ 10	<b>http-tlv-caching</b> 例 : Device (config-wireless-policy) # http-tlv-caching	WLAN でクライアント HTTP TLV キャッシングを設定します。
ステップ 11	<b>subscriber-policy-name</b> <i>policy-name</i> 例 : Device (config-wireless-policy) # subscriber-policy-name polmap5	サブスクリバポリシー名を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	<b>vlan <i>vlan-id</i></b> 例： Device(config-wireless-policy)# vlan 1	VLAN 名または VLAN ID を設定します。
ステップ 13	<b>no shutdown</b> 例： Device(config-wireless-policy)# no shutdown	設定を保存します。

## ローカルモードでのネイティブプロファイリングの設定

ローカルモードでネイティブプロファイリングを設定するには、[ポリシーマップの作成 \(CLI\) \(7 ページ\)](#) で説明されている手順に従う必要があります。ポリシープロファイルでは、ネイティブプロファイリングを設定するには、以下の手順の説明に従い、中央スイッチングを有効にする必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>central switching</b> 例： Device(config-wireless-policy)# central switching	中央スイッチングを有効にします。

## ネイティブプロファイル設定の確認

ネイティブプロファイル設定を確認するには、次の **show** コマンドを使用します。

```
Device# show wireless client device summary
```

```
Active classified device summary
MAC Address      Device-type      User-role
  Protocol-map
-----
1491.82b8.f94b   Microsoft-Workstation  sales
                9
1491.82bc.2fd5   Windows7-Workstation  sales
                41
```

```
Device# show wireless client device cache
```

```
Cached classified device info
MAC Address      Device-type      User-role
```

```

Protocol-map
-----
2477.031b.aa18   Microsoft-Workstation
                 9
30a8.db3b.a753   Un-Classified Device
                 9
4400.1011.e8b5   Un-Classified Device
                 9
980c.a569.7dd0   Un-Classified Device

Device# show wireless client mac-address 4c34.8845.e32c detail | s
Session Manager:
Interface :
IIF ID      : 0x90000002
Device Type  : Microsoft-Workstation
Protocol Map : 0x000009
Authorized   : TRUE
Session timeout : 1800
Common Session ID: 78380209000000174BF2B5B9
Acct Session ID : 0
Auth Method Status List
Method : MAB
SM State      : TERMINATE
Authen Status : Success
Local Polices:
Service Template : wlan_svc_C414.3CCA.0A51 (priority 254)
Absolute-Timer   : 1800
Server Polices:
Resultant Policies:
Filter-ID        : acl-auto
Input QOS        : in_qos
Output QOS       : out_qos
Idle timeout     : 60 sec
VLAN             : 10
Absolute-Timer   : 1000
    
```

クラス マップ名のクラス マップの詳細を確認するには、次の **show** コマンドを使用します。

```

Device# show class-map type control subscriber name test
Class-map          Action                               Exec  Hit  Miss  Comp
-----
match-any test     match day Monday                                     0     0    0     0
match-any test     match join-time-of-day 8:00 18:00                   0     0    0     0
Key:
"Exec" - The number of times this line was executed
"Hit"   - The number of times this line evaluated to TRUE
"Miss"  - The number of times this line evaluated to FALSE
"Comp"  - The number of times this line completed the execution of its
          condition without a need to continue on to the end
    
```

